

公民科

教科名	公民科	科目名	倫理
科目の目標	(1)自己・人間に対する考察ができたかをもとに、人間の普遍的命題について考察する態度を身につける。 (2)多様化する現代社会の状況や諸問題について考察する態度を身につける。 (3)国際社会の中で、生き方を考察する態度を身につける。		
履修学年	3年	類型	文系
単位数	3単位	履修形態	選択履修
教科書	高等学校 新倫理 新訂版 (清水書院版)	副教材等	テオリア 最新倫理資料集 (新版2訂) (第一学習社) パスポート倫理問題集 (新訂第2版) (清水書院)

①学習の目標

(1)多様化・複雑化する現代社会の中で、確立した個の視点を身につける。

(2)センター試験のリード文や資料を読解して解答するとともに、出題者の思想的観点について思索を深め、自己の価値観の形成の一助とする。

②学習内容と授業の進め方

第1編 現代に生きる自己の課題

第1章 人間とは何か

第2章 青年期の自己形成

第2編 人間としての自覚と生き方

第1章 人間における哲学

第2章 人生における宗教

第1節 キリスト教—愛の宗教

第2節 イスラーム—啓示と戒律の宗教

第3節 仏教—智慧と慈悲の宗教

第3章 人生の知恵

第4章 人生における芸術

- ・古代ギリシア哲学を通して、愛知の精神に基づいた人生のあり方を考察する。
- ・ヘブライズム・イスラム・インド思想を通して、人生のあり方を考察する。
- ・中国思想を通して、人生のあり方を考察する。
- ・作品と芸術家の関係を通して、人生における芸術の意味を考察する。

第3編 現代社会と倫理

第1章 現代の倫理的課題

第2章 現代に生きる人間の倫理

第1節 人間の尊厳

第2節 自然や科学技術と人間とのかかわり

第3節 民主社会における人間のあり方

第4節 自己実現と幸福

第5節 個人と社会とのかかわり

第6章 現代における理性の問題

- ・多様化した現代社会とそこから派生する諸問題について考察する。
- ・ルネサンス思想から構造主義までその時代状況を支える思想を考察しながら、現代日本の諸問題を解決するための方途を考察する。

第4編 国際社会に生きる日本人の自覚

第1章 日本の風土と外来思想の受容

第1節 日本の風土と伝統

第2節 仏教の伝来と隆盛

第3節 儒教の日本化

第4節 日本文化と国学

第5節 近世庶民の思想

第6節 西洋近代思想の受容

第2章 現代の日本と日本人としての自覚

・日本思想の基点である日本風土の特徴とそこから生まれた思想、更に仏教・儒教の伝来や西欧思想の流入とその日本化など現代日本思想の原風景を考察する。

・現代日本人の自覚のあり方を、戦後活躍した先人の言行を通して考察する。

第5編 現代の諸課題と倫理

第1章 生命と倫理

第2章 環境と倫理

第3章 現代の家族とその課題

第4章 地域社会の変容とその課題

第5章 情報社会とその課題

第6章 グローバル化の時代と倫理

第7章 人間の福祉と国際社会

・環境・生命の視点から現代社会の諸問題を考察する。

・家族・地域社会と情報社会の視点から現代社会の諸問題を考察する。

・異文化理解と人類の福祉の視点から現代社会の諸問題を考察する。

③学習に当たっての留意点

1年次に「現代社会」を2単位必修で実施しているので、3年次の「倫理」では更に深化させ、受験対応の知識を超えた展開も必要になる。

④評価の観点

(1)関心・意欲・態度【関】

人間尊重の精神と自己形成について関心を高め、人格の形成と生きる主体としての自己の確立に努める意欲をもつとともに、諸課題を探究する態度を身に付け、人間の在り方生き方について自覚を深める。授業内の諸活動に積極的に参加する。

(2)思考・判断力【思】

生きる主体としての自己の確立について広く課題を見だし、人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察し、広い視野に立って主体的・公正に判断する。

(3)資料活用・技能・表現【資】

青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関する諸資料を収集し、自己形成に資するよう活用するとともに、授業内に設定された機会において、追求し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現する。

(4)知識・理解【知】

青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などにかかわる基本的な事柄を、生きる主体としての自己確立の課題とつなげて理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。

⑤評価の方法

定期考査の素点とともに、日常の授業への参加態度とあわせて総合的に評価する。

⑥授業計画

月	単元名	具体的な学習内容	評価の方法
4	第1編 現代に生きる自 己の課題	1 人間とは何か 2 青年期の自己形成	・青年期の積極的な意義と青年期にある 自己の生き方にかかわる課題に対する関 心が高まっている。【関】 ・青年期の意義と課題について、自己の生 き方にかかわる課題とつなげ、他者とも に生きる観点から多面的・多角的に考察 し、豊かな自己形成に向けて探求してい る。【思】 ・収集した資料の中から、親子や友人、男 女の関係の在り方等他者とのかわり、 社会や自然とのかわりの観点から豊か な自己形成に向けた学習に役立つ情報を 主体的かつ適切に活用している。【資】 ・青年期の意義について、自己確立の基 礎を培う時期であることを理解し、人格 の形成に生かす知識として身に付けてい る。【知】
5	第2編 人間としての自 覚と生き方	第1章 人生における哲学 1 神話から哲学へ 2 自然哲学とソフィスト 3 真の知への道ーソクラテス 4 理想主義的なあり方ープラトン 5 現実主義的なあり方ーアリストテレス 6 幸福をめぐる問いーヘレニズムの思想	・自己の生き方にかかわる課題 の解決につながるものとして、人 生における哲学、宗教、芸術のも つ意義などに対する関心が高 まっている。【関】 ・自己の生き方にかかわる課題と 人生における哲学、宗教、芸術の もつ意義などをつなげて、人間の 存在や価値にかかわる基本的な 課題を見いだしている。【思】 ・人間の存在や価値にかかわる 基本的な課題を探究する学習に 役立つ情報を主体的かつ適切に 選択して活用している。【資】
6		第2章 人生における宗教 第1節 キリスト教ー愛の宗教 1 ユダヤ教 2 イエスの思想 3 世界宗教への展開 第2節 イスラムー啓示と戒律の宗教 第3節 仏教ー悟りと慈悲の宗教 1 バラモン教 2 仏陀の思想 3 仏教のその後の展開	・自己の生き方にかかわる課題 が、多くの先哲によって探求され た課題と通じていることに気付 き、それが人間の存在や価値に かかわる基本的な課題であること を理解している。【知】
7		第3章 人生の知恵 1 孔子と儒家の思想 2 儒教の展開 3 道家の思想	前期中間考査 イスラム教まで
8		第4章 人生における芸術	
9	第3編 現代社会と倫理	第1章 現代の特質と倫理的課題 1 科学技術の発達と今日の課題 2 現代社会の特質 第2章 現代社会を生きる倫理 第1節 人間の尊厳 1 自己肯定の精神 2 宗教観の転換 3 人間の偉大と限界 第2節 自然や科学技術と人間のかかわり 1 自然への目と科学的なものの見方 2 事実と経験の尊重 3 理性の光 第3節 民主社会における人間のあり方	・現代の特質について、倫理的課 題の観点から自己の課題とつな げて意欲的に考えようとしてい る。【関】 ・現代の特質のうち、人間として の在り方生き方にかかわりの深 い課題を見いだしている。【思】 ・収集した資料の中から、今日に 生きる人間の倫理的課題を大局 的にとらえる学習に役立つ情報を 主体的かつ適切に選択して活用 している。【資】 ・現代の特質について、倫理的視 点から大局的に理解し、自己の 課題とつなげて人格の形成に生 かす知識として身に付けている。 【知】
10		1 民主社会の原理	

11		2 人権思想の展開 第4節 自己実現と幸福 1 人格の尊重と自由 2 自己実現と自由 3 幸福と功利 4 創造的知性と幸福 第5節 個人と社会とのかかわり 1 人間性の回復を求めて 2 自己を見つめる 3 社会参加と奉仕 第6節 生命への畏敬と他者の尊重 1 生命への畏敬 2 理性見直しと他者の尊重	【知】 前期期末考査 西洋近代思想まで(実存主義まで)
12	第4編 国際社会に生きる日本人の自覚	第1節 日本の風土と伝統 1 日本の風土と人々の生活 2 古代の人々の考え方 第2節 仏教の伝来と隆盛 1 仏教の移入 2 仏教の土着化 第3節 儒教の日本化 1 儒教の伝来と朱子学 2 陽明学 3 古学 第4節 日本文化と国学 1 古典美の再発見 2 国学 第5節 近世庶民の思想 1 都市庶民の思想 2 農民の思想 第6節 西洋近代思想の受容 1 西洋文明との接触 2 啓蒙思想と民権論 3 キリスト教の受容 4 国家主義の高まりと社会主義 5 近代的自我の成立 6 近代日本哲学の成立 7 近代日本の思想傾向への反省	・日本人に見られる人間観、自然観、宗教観などの特質について、自己とのかかわりにおいてとらえ、意欲的に探求している。【関】 ・日本人に見られる人間観、自然観、宗教観などの特質について、自己形成の課題とつなげて、多面的・多角的に考察している。【思】 ・収集した資料の中から、日本人に見られる人間観、自然観、宗教観などの特質についての理解を深め国際社会に生きる主体性のある日本人としての在り方生き方について探求する学習に役立つ情報を主体的かつ適切に選択して活用している。【資】 ・我が国の風土や伝統、外来思想の受容に触れながら、日本人に見られる人間観、自然観、宗教観の特質を、自己とのかかわりにおいて理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。【知】 後期中間考査(日本思想 近世まで)
		第2章 現代の日本と日本人としての自覚	
	第5編 現代の諸課題と倫理	第5編 現代の諸課題と倫理 第1章 生命と倫理 第2章 環境と倫理 第3章 現代の家族とその課題 第4章 地域社会の変容とその課題 第5章 情報社会とその課題 第6章 グローバル化の時代と倫理 第7章 人間の福祉と国際社会	・現代の諸事象における倫理的諸課題のうちから選択して取り上げた課題に対する関心が高まっている。【関】 ・現代の諸事象について、倫理的視点から課題を見いだしている。【思】 ・収集した資料の中から、現代の倫理的諸課題を自己の課題とつなげて追求する学習に役立つ情報を主体的かつ適切に選択して活用している。【資】 ・生命の価値、生と死の問題、他の生命体との共存関係、地球規模での人類の責任など、「生命」又は「環境」について、自然と人間とのかかわりを視点として、自己の生き方とつなげて理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。【知】 第5編の配当時間は3時間を予定(基礎社会で履修済みの内容の重複はしない)